

## 留学生への日本語支援 (2016 年度)

南 紅玉<sup>1</sup>・朴 仙子<sup>2</sup>

<sup>1</sup>東北大学大学院教育学研究科

<sup>2</sup> 留学生のための日本語サポートの会

留学生を対象とした日本語支援プログラムは、東北大学大学院教育学研究科において 2011～2015 年度に運用された「アジア共同学位開発プロジェクト」の研究活動のなかで構想され、2014 年度から本研究科内で実施されたものである。同プロジェクトの終了に伴い本プログラムもいったん休止されたが、留学生たちからの強い要望を受けて、今年度の第 2 学期から教育ネットワークセンターの事業として再開されることとなった。本稿では、まず本プログラムの立ち上げから昨年度までの概要をふり返る。次に今年度の支援活動の実施状況について報告し、最後に成果と今後の課題について述べる。(なお、朴仙子は「アジア共同学位開発プロジェクト」事務室に教育研究支援者として 5 年間勤務した。)

### 1. 留学生支援プログラムの立ち上げと運用開始

「アジア共同学位開発プロジェクト」においては、AEL(Asia Education Leader) Course の運用と関わって課題となる留学生の受け入れおよび支援体制のあり方について検討が重ねられた。居住の問題をはじめとした多くの課題を検討する中から、留学先の文化や伝統にふれ、あるいは人びととの交流の機会を提供すること、そしてその際に生じる言語の壁を克服する手立てを提供することが当面の課題であると考えられた。これを具体化したものが、留学生を対象とした日本語支援プログラムである。それは、何よりも研究活動を行う上での実用性の高いプログラムであるのだが、同時に日本語の支援を通して人と人との関係が新たにつくられ、互いの交流につながるようなプログラムとして構想された。

2014 年 8 月に発足したこのプログラムは、仙台市で四半世紀におよぶ外国人の日本語支援活動を行なっている「国際都市仙台を支える市民の会 (ICAS: International Citizens' Association)」(代表: 氏家洋子氏) の協力のもと、「留学生のための日本語サポートの会」による人材提供を得て実施されることとなった。サポートの会のメンバーは、長年にわたり外国人の日本語支援に携わる方々をはじめとしながら、出版関係者、東北大学の元職員、卒業生など、多様なキャリアを有している。こうした方々に本プログラムの実施にあたってはボランティアとしてご協力をいただいた。

同プログラムは、①日本語授業、②日本語添削、③論文講読、④国際交流という 4 つの領域に分かれて運営された。具体的には、①日本語授業では、レポートや論文の文章の書き方や留学生が間違いやすい表現などを中心に学んでもらう。次に、②日本語添削では、

留学生が作成した発表資料、レポート、論文などの日本語を添削する。③論文講読では、留学生が読みたい論文をボランティアと1対1で講読する。最後の④国際交流は、留学生と仙台市民との交流プログラムである。総じていえば、本プログラムは留学生がアカデミックな日本語スキルを身につける機会とともに、支援—被支援の関係をこえた交流の機会を提供することを目的とするものとして構想され、実施に移されたのである。

しかし、この取り組みは、本研究科においては新たな試みであったため、実施するなかではじめて気づく課題も少なくなかった。ボランティアとしてご協力いただいている支援者の方々、参加した学生たちの意見を伺いながら、本研究科に適した留学生支援の今後のあり方を探っていくことが必要であると考えられた。

(朴 仙子)

## 2. 今年度の日本語支援活動の内容

### (1) 日本語支援活動の実施体制

本プログラムの実施窓口であった「アジア共同学位開発プロジェクト」が昨年度末までで終了したため、プログラムはその後の半年ほど休止することとなったが、再開を強く希望する留学生の声を受けて、あらたに教育ネットワークセンターを窓口として支援活動を再開することとなった。支援活動にご協力いただいたボランティアの支援者は計8名であり（昨年度から継続した7名と新たに参加した1名）、前記したようなさまざまな経歴をお持ちの方々である。

再開にあたっては、まず教育学研究科に所属する全留学生のメーリングリストを作成し、これを通じて日本語支援活動が再開されることを周知した。また、次項に示したペースで開催する各回の講義、添削、講読については、開催一週間前を目途にその都度留学生全員に案内メールを送信するという形で情報を発信し、個々の授業への参加希望者を募った。参加者の人数確定後にはその人数を支援者側代表である奥平正子氏に伝えてそれに応じた支援者の人数の調整をお願いすることとなった。

### (2) 2016年度活動スケジュール

教育学研究科に所属する留学生全員を対象とした日本語支援の再開を研究棟内各所に貼ったポスターや本研究科のウェブサイトを通じて広報するとともに、活動再開を目前に控えた9月28日には、支援ボランティアの方々とともに説明会を開催した。

次に示した活動スケジュールにしたがって、2016年10月から2017年1月まで、原則として毎週金曜日の13:20~16:00に日本語支援活動を行ない、全15回の開催の予定通りに実施することが出来た。最終回の翌週にはボランティアの方々とは本研究科の高橋満研究科長、教育ネットワークセンター教職員との交流会を設けて、今年度の成果、問題点、今後の運用のあり方などについて意見を交換した。

## 2016年度 留学生日本語支援スケジュール

	9月	10月	11月	12月	2017年1月	2月	3月	
1								1
2				金⑨				2
3						交流会		3
4			金⑤					4
5								5
6					金⑫			6
7		金①						7
8								8
9				金⑩				9
10								10
11			金⑥					11
12								12
13					金⑬			13
14		金②						14
15	お休み						お休み	15
16				金⑪				16
17								17
18			金⑦					18
19								19
20					金⑭			20
21		金③						21
22								22
23								23
24								24
25			金⑧					25
26								26
27					金⑮			27
28	説明会	金④						28
29								29
30								30
31								31

## (2) 日本語支援の内容

日本語支援は具体的に二つの内容に分かれて進められた。一つは長年外国人に日本語を教えた経験のある氏家洋子氏が講義形式で、日本語の文法および読解の授業を行う。もう一つは、支援者の方と留学生が一对一でレポートや論文の日本語添削および専門書の講読などを行う。日本語添削に関しては、二つの時間帯に分け、日本語授業に参加した学生がその次の時間に一对一の日本語添削や専門書講読などに参加できるように設定した。

## 2016年度 日本語支援の内容

	内容	時間	場所
①	日本語授業（文法・読解）	13：20～14：50	204 教室
②	日本語添削・専門書講読	13：20～14：50	203 教室
③	日本語添削・専門書講読	15：00～16：00	203 教室

## 2. 日本語支援の実施状況

今年度、日本語支援に参加した学生は16名であり、うち他研究科に所属する留学生が4名含まれていた。内訳は交換留学生2名、学部研究生6名、大学院研究生2名、博士前期2年3名、博士後期2年1名、博士後期3年1名、その他1名である。また、参加頻度は研究生及び交換留学生が最も高かった。博士前期2年の参加者は主に修士論文の日本語添削を目的として複数回の参加となる傾向があり、博士後期の参加者は発表資料などの日本語添削を目的に1、2回のみ参加となった。なお、全15回の留学生の延べ参加人数は125人であった。

2016年度 日本語支援実施状況

	日時	留学生参加者数(名)				支援者参加者数(名)			
		①	②	③	総数	①	②	③	総数
説明会	9/28(水)	3				6			
第1回	10/7(金)	休講	6	6	6	休講	4	4	4
第2回	10/14(金)	3	2	4	6	1	3	4	4
第3回	10/21(金)	7	1	6	9	1	4	5	5
第4回	10/28(金)	8	1	5	9	1	5	6	6
第5回	11/4(金)	7	3	6	10	1	6	7	7
第6回	11/11(金)	4	3	5	9	1	4	5	5
第7回	11/18(金)	4	4	3	8	1	7	8	8
第8回	11/25(金)	休講	4	4	6	休講	6	6	6
第9回	12/2(金)	4	4	6	9	1	6	7	7
第10回	12/9(金)	3	5	3	8	1	6	7	7
第11回	12/16(金)	5	5	5	11	1	5	6	6
第12回	1/6(金)	休講	4	4	4	休講	5	5	5
第13回	1/13(金)	5	4	8	10	1	5	6	6
第14回	1/20(金)	8	2	6	10	1	7	8	8
第15回	1/27(金)	3	4	6	10	1	7	8	8
交流会	2/3(金)	—				7			

注：①日本語授業(13:20～14:50) ②日本語添削・専門書講読(13:20～14:50) ③日本語添削・専門書講読(15:00～16:00)

### 3. 支援者、留学生にとっての成果と課題

15 回の授業が終了後支援者と留学生両方に簡単なアンケートを取り、今年の支援に対しての感想や意見を集めた。その結果、様々な意見や感想が寄せられた。その中の一部を抜粋しまとめたのが下記の表である。留学生にとって、特に日本に来て間もない学生にとっては日本語の学習だけではなく、日本の生活に慣れるための場を提供したといえよう。一対一の日本語添削は読む・書く・聞く・話すなど日本語学習効果を発揮していることが感想の中でも見てとれる。また、学習だけではなく支援者にとってもこの活動は有意義であることもわかる。

この日本語活動は開始してまだ約二年間という短い期間であるため、研究科全体の認知度が低いことも事実である。様々なニーズを持っているより多くの留学生がこの支援活動に参加し、勉学や研究のみならず生活などの側面でのサポートを受けられるよう、今後より充実した支援内容の検討や体制を考えていく必要がある。

	成 果	課 題
支援者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の多様な考えや日本語に対する取り組みに触れられてよかった。</li> <li>・留学生との交流により各国の事情が理解できた。日頃気にせず使っている日本語がいかに曖昧に使っていたかを認識させられた。</li> <li>・現在の留学生の日本語の実力と日本での友人関係、生活環境を知ることができた。</li> <li>・留学生の論文を通し東北大学の授業を無料で受講している気持ちで、知的欲求が満たされた。</li> <li>・初来日で緊張している学生に、仙台の一市民として貢献できていると感じた。</li> <li>・日常では触れることのないような資料を学生さんと一緒に読むことで、新たな知識や情報を得ることにつながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終わる時間を延長してほしい。(現在 16:00 まで)</li> <li>・事前に取り扱う資料を教えてほしい。</li> <li>・①②と③の時間差があるので同じ時間にしてほしい。</li> <li>・終了時間に気が付かないことが多いので、終了 5~10 分前に報せてほしい。</li> </ul>
留学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門書などを先生方と一緒に読むことで、一人で読むと気が付かない問題点に気づかされた。それ以外にも生活上の悩みが相談できた。日本に来たばかりの留学生にとって、勉強と生活上で役立つ活動である。</li> <li>・日本語のコミュニケーション能力が向上した。</li> <li>・普段日本語を練習する機会があまりないが、先生方と話すことで日本語の使い方が上達した。また、論文などの添削をしてもらい安心して発表することができた。</li> <li>・日本語の応用が上達した。また、先生方の人生経験を聞くことで勉強になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の授業で使っている文書が難しすぎる。</li> <li>・文法の授業の回数を増やしてほしい。</li> <li>・就活用の日本語やマナーについても教えてほしい。</li> <li>・文法の授業で普段使える日本語も教えてほしい。</li> <li>・毎回同じ先生ではなく、できれば全員の先生方と話してみたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本語添削を通して文法の勉強になった。また、日本語で話す練習にもなった。日本に来たばかりの留学生として勉強面だけではなく生活面の面倒もみてもらった。</li><li>・文法の授業で東大や京大の入試問題などを実際に勉強できたことが良かった。</li><li>・先生方との交流を通して日本文化を知ることができた。また様々な角度から専門分野の資料を読むことができて勉強になった。こんな良い機会をくれた研究科に感謝する。</li></ul>	
--	---	--

(授業風景)



(南 紅玉)